

ヒブ（インフルエンザ菌b型）予防接種について

1. 乳幼児の細菌性髄膜炎と Hib（インフルエンザ菌 b 型）

- ① 体の中の最も大切な部分ともいえる脳や脊髄を包んでいる膜を髄膜といい、この髄膜に細菌やウイルスが感染して炎症が起こる病気が髄膜炎です。髄膜炎には、細菌が原因の「細菌性髄膜炎」と細菌以外(ウイルスなど)が原因の「無菌性髄膜炎」がありますが、治療後の経過が悪く後遺症が残るなどのため特に問題となるのが「細菌性髄膜炎」です。細菌性髄膜炎の初期症状は、発熱や嘔吐、不機嫌、けいれんなどで、風邪などの他の症状と似ているため、早期に診断することはとても難しい病気です。
- ② 乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、原因の半分以上を占めているのが「インフルエンザ菌 b 型」という細菌で、略して「Hib(ヒブ)」と呼ばれています。Hib は冬に流行するインフルエンザ(流行性感冒)の原因である「インフルエンザウイルス」とは全く別のものです。また、他の多くの細菌やウイルスとは異なり、Hib は乳幼児に感染しても抗体(免疫)ができず、繰り返し感染することがあります。
- ③ Hib による細菌性髄膜炎(Hib 髄膜炎)は、5 歳未満の乳幼児がかかりやすく、特に生後 3 か月から 2 歳になるまではかかりやすいので注意が必要です。日本の年間患者数は少なくとも 600 人と報告されており、5 歳になるまでに 2000 人に 1 人の乳幼児が Hib 髄膜炎にかかっていることとなります。
- ④ Hib 髄膜炎にかかると 1 か月程度の入院と抗生物質による治療が必要となりますが、治療を受けても約 5%(年間約 30 人)の乳幼児が死亡し、約 25%(年間約 150 人)に発育障害(知能障害など)や聴力障害、てんかんなどの後遺症が残ります。さらに最近では抗生物質の効かない菌(耐性菌)も増えてきており、治療が困難になってきています。
- ⑤ その他にも Hib は、肺炎、咽頭蓋炎、肺血症などの重篤な全身感染症を引き起こします。

2. Hib による感染症を予防する Hib ワクチン

- ① 接種年齢は、2 か月齢以上になれば受けられます。望ましい接種スケジュールは、初回免疫として生後 2 か月から 7 か月になるまでに接種を開始し、27 日（医師が必要と認めるときは 20 日）以上、標準的には 56 日までの間隔をおいて 3 回、追加免疫として初回接種に係る最後の注射終了後 7 月以上、標準的には 13 月までの間隔をおいて 1 回の計 4 回接種します。
ただし、初回 2 回目及び 3 回目の接種は、生後 12 月に至るまでに行うこととし、それを超えた場合は行わないこととします。この場合も追加接種は可能ですが、初回接種に係る最後の注射終了後、27 日（医師が必要と認めるときは 20 日）以上の間隔をおいて 1 回行うこととします。
- ② Hib ワクチンは、4 回の接種を受けた人のほぼ 100%に抗体(免疫)ができ、Hib 感染症に対する高い予防効果が認められています。
- ③ Hib ワクチンの接種後に、他のワクチン接種でもみられるのと同様の副反応がみられますが、通常は一時的なもので数日で消失します。最も多くみられるのは接種部位の発赤(赤み)や腫脹(はれ)です。また発熱が接種された人の数%におこります。
重い副反応として、非常にまれですが、海外で次のような副反応が報告されています。(1) ショック・アナフィラキシー様症状(じんましん・呼吸困難)、(2) けいれん(熱性けいれんを含む)、(3) 血小板減少性紫斑病。

(裏面へつづく)

④このワクチンは、製造の初期段階にウシの成分(フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国産ウシの血液および心臓由来成分)が使用されていますが、その後の精製工程を経て、製品化されています。また、このワクチンはすでに世界 100 か国以上で使用されており、発売開始からの 14 年間に約 1 億 5000 万回接種されていますが、このワクチンの接種が原因で TSE(伝達性海綿状脳症)にかかったという報告は 1 例もありません。したがって、理論上のリスクは否定できないもののこのワクチンを接種された人が TSE にかかる危険性はほとんどないものと考えられます。

3. 次の方は接種を受けないでください。

- ①明らかに発熱している方(通常は 37.5℃を超える場合)。
- ②重い急性疾患にかかっている方。
- ③このワクチンの成分または破傷風トキソイドによってアナフィラキシー(通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと)をおこしたことがある方。
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方。

4. 次の方は接種前に医師にご相談ください。

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患がある方。
- ②過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた方。
- ③過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方。
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方。
- ⑤このワクチンの成分または破傷風トキソイドに対してアレルギーをおこすおそれがある方。

5. 接種後は以下の点に注意してください。

- ①接種後 30 分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしてください。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後 1 週間は体調に注意してください。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④このワクチンの接種後、ちがう種類のワクチンを接種する場合には、1 週間以上の間隔をあける必要があります。ただし、このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能ですので、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
- ⑤接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ⑥接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつもどおりの生活でかまいません。